



## 龍踊部

### 地道な反復練習が力となって 見るものを魅了する龍踊を披露

地域のイベントやお祭り、学会などで長崎ならではの龍踊を披露する龍踊部。まるで生きているかのような滑らかな美しい龍の動きを生み出すには、地道な基礎練習が欠かせません。最初に入念な準備体操を行った後、棒の先端に鉄アレイを固定した手作りの練習器具「アレイ棒」を掲げて、基本的な龍踊の動きを体

に覚え込ませます。そして肩が慣れてきた頃に、実際の龍を使いながら演技の練習へ。スマートフォンで動画を撮影してフォームを確認し、細かな動きや全体のタイミングを調整していきます。龍踊の主演である頭の部分を担当する部長の横尾拓哉さん(工学部3年)いわく「胴体や尻尾と息を合わせるのが難しく、練習の中

で試行錯誤しています。頭の部分は6キロくらいあるので、入部前と比べると腕の筋肉はついたかなと思います」とのこと。部員のほとんどは県外出身者で、新入生歓迎会で初めて龍踊を知り、入部を決める学生も多いそうです。「せっかくだから長崎らしいことをしたいという気持ちでみんな頑張っています。練習の苦勞もありますが、数百人もの前で演技をして盛り上がる、本当にやってよかったです」と横尾さん。10月には毎年恒例となっている



練習器具を使いながら、龍踊の基本動作を体に覚えさせます。メリハリのある足さばきや、掲げた龍を安定させることが大切。

住吉まつりでの演技が予定されています。

龍踊は一体感が大事!  
何度も練習を繰り返して  
動きを合わせていきます

本番では龍踊だけではなく、龍囃子も部員たちが奏でています。また頭以外のポジションは全員が常にできるように準備しているそうです。



真剣な表情で碁盤を見つめる部員たちに、ふとしたきっかけで笑いが広がります。学年や学部もさまざまですが、お互いに話しやすい関係。

## 囲碁同好会

### 時に真剣に、時に笑い合いながら 奥の深い囲碁を楽しむ部員たち

静まり返った空間に、碁石を打つ音だけが聞こえる……そんなイメージとは違い、時には笑い声が響く和室は和気あいあいとした雰囲気です。さまざまな学部から部員が集まる囲碁同好会には、大学から囲碁

を始めた初心者も多く、最初は目の少ない9路盤からスタートします。13路盤、通常の19路盤と徐々に大きくしていきながら、実際に対局を重ねて先生や先輩からアドバイスをもらいます。真剣に碁盤と向き合う時

# サークルの星!

キラッと光るサークルや  
活躍する学生をクローズアップ!

同じ音楽を愛する  
仲間とのステージは  
かけがえのない経験!

## E-Rockers

### 多彩な音楽や人との出会いの中で 刺激を受けながら演奏に打ち込む

85名の部員がそれぞれバンドを組んで、演奏やライブを行なっている音楽サークルのE-Rockers。月に一度の学内ライブや学園祭、ライブハウスでの演奏を目標に、バンドごとに集まって部室やスタジオで音を合わせています。もともと音楽は未経験で入部後に始めた学生も多く、

サークル活動を通して自然と仲間が増えていくそうです。また毎年8月には音楽合宿も開催。みっちり2日間練習して、3日目に1年生の初披露となるライブを行います。演奏する楽器は、各々が自分たちで購入したもの。部長の中村亮太さん(工学部3年)も、苦勞しながらアルバイト



年3回のライブハウスでの演奏には、部内オーディションで選ばれたバンドが出演。

で貯金して自分のギターを購入しました。「長崎大学の音楽系サークルでは珍しく、E-Rockersではアコースティックギター限定のライブを年に2回開催していて、それに憧れて入部しました」。落ち着いた弾き語りから激しいロックまで、多種多様な音楽

ジャンルが集まっていることもサークルの特徴。「他のバンドの演奏がきっかけで、自分の聴く音楽の幅が広がります」と話す中村さん。学業やアルバイトとうまく両立させながら、音楽を通して仲間との交流を満喫しています。



普段は部室で活動し、本番前になると学外のスタジオをレンタル。「あの曲やってみよう」と声を掛け合い、笑顔で楽しみながら音を合わせています。

初心者から経験者まで  
大歓迎!一緒に囲碁を  
楽しみましょう

間を大切にしながらも、普段からとにかくにぎやかな部員たち。部長の石橋洋二さん(薬学部2年)は「集中する時もありますが、お互いに楽しむことが何より大事。囲碁より先に、同好会の和やかな雰囲気惹かれて入部する部員が多くて、僕もその一人です」と笑顔。そんな囲碁同好会に今年春、実績のある囲碁経験者が2人も入部しました。西日本対

抗戦の段位クラス九州代表の松尾周佳さんと、全日本アマチュア本因坊決定戦の長崎県代表となった田中裕天さん。日々対局を重ねながら切磋琢磨しているそうですが、にぎやかな同好会にもすっかりなじんでいます。「初心者に教えることで、自分の勉強にもなります」と話す2人。さまざまな部員が集まっても、囲碁を楽しむという思いは一致しています。



この春入部した松尾さん(前列左から2人目)と田中さん(中央)。和やかな部の雰囲気はもちろん、実力のあるお互いの存在が入部のきっかけになりました。